

住信為替ニュース

THE SUMITOMO TRUST & BANKING CO., LTD FX NEWS

第1529号 2000年02月14日(月)

〈 getting stronger 〉

週末に報じられた中堅スーパー「長崎屋」の会社更生法申請など負の遺産を引きずった企業の行き詰まりはあるものの、日本の景気は徐々に力強さを増しているようです。当面牽引車になりそうなのは、設備投資。これに呼応するかのように週末の朝日新聞は、日本の企業経営者の中で景気先行きに対する強気の見方が強まっている、との調査結果を掲載していた。

日本企業の先行き強気が具体的な数字となって出てきたのは、10日に経済企画庁から発表された昨年12月の機械受注。「船舶と電力を除いた民需」(民間設備投資の先行指標)は、11月のマイナス2.2%から前月比実にプラス16.1%となった。この数字に対する市場の予想は「わずかながらのマイナス」だったから、発表された強い数字が際立った。

この結果、10月から12月の昨年最終四半期の「船舶・電力を除く民需」(先行指標と考えられている)はプラス9.9%となった。これはその前の四半期のプラス3.1%に続くもので、しかも伸びが加速してきているのが注目される。

日本の産業界の設備投資を先導しているのは、電気機械(プラス34.3%)と通信業(プラス19.6%)である。今後の日本経済の牽引車と見られる分野で一番設備投資が伸びているが、これらの分野では今後も大規模投資が続きそうである。携帯電話は来年春に発売を控えた次世代携帯電話で関連企業の設備投資が活発化しているし、企業のIT投資は今年かなり本格化しそうな雰囲気である。調査結果に出てきている経営者の強気がこれを支える。

電気・通信を中心に動意が見えてきた設備投資に対して、個人消費は依然として力強さが見えない。長崎屋の会社更生法申請はその端的な例のように見える。しかし、衣料などを中心とした長崎屋の行き詰まりが、そのまま日本の個人消費の先行きを指し示している訳ではない。

PCや携帯電話など個人でも、ITに関連した分野の消費は大幅に伸びているし、重要なのは従来からある「消費統計」が必ずしも日本の消費者の消費を全体として捕まえているか怪しい点。例えば、デパートやスーパーの売り上げが具体的に「消費の指標」として取り上げられるが、身近な例を考えても自らを含めて日本の消費者が消費を行うルートは多様化している。従来の指標だけで、日本の消費の強さを計るのには無理がある。

雇用情勢などを考えれば、日本の消費が顕著に指標の中で伸び出すのにはまだ時間がかかるようにも見える。しかし雇用の不安定が持続する中で、「ただ消費を抑制して凌げばよい」という雰囲気は日本の国民の間からも消えているように見える。前向きな形での消費は今後

徐々に増えていくと考えられる。

14日朝の東京市場を見ても、長崎屋の会社更生法申請は株式市場にはそれほど響いていない。寄り付きはニューヨーク安もあって下げたものの、その後株価は盛り返しており、底堅さを見せている。株価がしっかりした動きを続け、その中で個人投資家の成功体験が積み重なっていけば、今後消費者の間にも企業の先行き強気の雰囲気は伝搬していくことになる。

依然として日本の景気に対しては弱気と強気が拮抗しているように見える。しかし筆者は、日本の景気が回復基調に乗っていることは間違いないと考えている。

《 rising oil prices 》

原油価格の上昇傾向が続いている。先週金曜日の海外の市場では北海ブレントの3月切りが28.20ドルと湾岸戦争当時の水準まで上昇した。14ヶ月前は9.64ドルだったから、上げのペースは速い。

上げのきっかけは、国際エネルギー機関（IEA）が世界の石油在庫が10年ぶりの低水準に落ち込んだとの発表をしたこと。在庫減少の背景は、世界的な需要増加に対して石油輸出国機構（OPEC）が予想外の政策抑制を継続していることである。世界の原油需要は昨年1.2%増加して、7520万バレルとなった。今年も1.8%の増加予想で、韓国だけで今年の原油使用量は昨年と比較して7%も増加すると予想されている。

こうした需要の増加を背景に、原油在庫は世界各地で減少を続けている。IEAの最新統計によれば、現在北米の原油在庫は49日分で、これは一年前54日分を大幅に下回っている。ちなみに他の地域の在庫は、欧州が60日分（一年前62日分）、アジア・太平洋地域が45日分（48日分）。

これに対して、世界の原油生産国の中で現在一番団結力が強いOPECは、業界関係者も驚く生産抑制政策を続けている。OPECの公式生産枠は3310万バレルだが、現在の生産量は2620万バレルになっていると思われる。原油価格の今後の動向に大きな影響力を持つのは、来週開かれるOPECのエネルギー相会議で、ポイントはここで生産量の引き上げが決まるかどうか。

リチャードソン米エネルギー相は今月サウジ、クウェートを訪問し、増産を呼びかける予定で、この点に関連してはOPEC加盟国であるベネズエラの石油相は107万バレル/日量の増産を提案している。

もっとも、原油相場の大幅上昇は、これまでのところ先進各国の物価環境にそれほど大きな影響を与えてはいない。OECD諸国の全輸入量に占める石油、石油製品の割合は現在4%になっている。これは、1980年代初めの13%からは大幅な減少である。しかし時期は悪い。世界経済全体が需要増加の気配を示しているため。例えば、このところの原油相場上昇で欧州のインフレ率は2%の水準を突破してくると見られている。

原油相場が現在の水準からさらに上昇してくるようだと、世界的に「利上げモード」に入っている世界の中央銀行の政策にも影響を与えそうである。

今週の主なスケジュールは以下の通りです。

2月13日(月)	米12月企業在庫
2月14日(火)	日本の1月マネーサプライ 2月の日銀金融経済月報、速見総裁会見 米1月鉱工業生産、設備稼働率
2月15日(水)	日本の12月鉱工業生産確報 米1月住宅着工、認可 米1月輸出入物価
2月16日(木)	米1月生産者物価 米グリーンспанFRB議長議会証言 ECB理事会
2月18日(金)	ウインドウズ2000 日本語版発売 米1月消費者物価 米12月貿易収支 米1月実質賃金
2月19日(土)	米1月財政収支

《 have a nice week 》

3連休は良い天気でした。出かけられた方が多かったのではないのでしょうか。私は所用があり、都内をうろうろした程度でしたが。

14日の朝は起きたらやはり、チャンネルを17に合わせました。丸山はどうなったか、タイガーの7連勝はと気になる。テレビを付けたのは6時20分ごろで、ミケルソン - 15、タイガー - 14、丸山 - 13となっていた。丸山が3位で、テレビに頻繁に登場する。

アメリカのテレビのゴルフ番組でこんなに日本人が頻繁に映るのを見たのは、私にとっては1970年代後半の「エオキ」(青木)以来。彼等は、「アオキ」と発音できない。母音が重なる。アナウンサーが、「エオキ」「エオキ」というのを、ニューヨークのアパートでずっと見ていたのを思い出しました。「エオキ」が戦ったのは、ジャック・ニクラウス。あれからもう20年以上もの時間がたった。その間、日本の男子ゴルファーはほとんどアメリカでは活躍していなかった。

一緒に回ったミケルソンがあまりにも大きいために目立ちませんでしたが、丸山は体も大きいしPGAのプロの中に入れても違和感がない。性格も明るいし、参戦3つめの大きな大

会（ビュイック・インターナショナル）でタイガー・ウッズと並んでのいきなりの2位。彼はアメリカのマスコミでも既に人気者になった印象。今後の活躍が期待できそうです。

結局、丸山は-14で最後のホールでバーディを取ったタイガー・ウッズと同じスコアで2位終了。彼は最終日が72で、スコアが伸びなかった形。しかし、その上にはミケルソン（-17）しかいない。我慢我慢のゴルフでした。最後の数ホールはパットがほんの少しですが弱くなっていた。もうちょっと強く打てればいくつかが入っていて、優勝にもっと絡めたかもしれない。しかし、今回の2位タイと高い賞金獲得額で今後参加できる試合数も増えるし、そうでなくても招待も届いて試合数は増えるでしょう。アメリカの試合、ギャラリー、選手にもとけ込める気がする。

7連勝がかかっていたタイガー・ウッズは素人目に見て、ミケルソンに早い段階で追い付きすぎてしまったように思いますが、どうでしょうか。日本時間で午前6時30分くらい、確か13番ホールでバーディを取ってスコアを-15にした時だと思う。ほんの一瞬の首位タイ。もうちょっと後の方で「タイ」になった方が緊張感を維持できたかもしれない。最後の数ホールは「もう俺はいい」という印象だった。

しかしタイガー・ウッズはこの大きな賞金の高い大会（1位は5000万以上だと思った）で2位タイに入ったことで、生涯獲得賞金では今までトップを走っていたデービス・ラブを抜いたという。ツアーに参加して4年もたたない時点での生涯賞金トップ。これも凄い。

それでは皆さんには、良い一週間をお過ごし下さい。

《当「ニュース」は、住信基礎研究所主席研究員の伊藤（03-5410-7657 E-mail ycaster@gol.com）が作成したものです。許可なき複製、転送、引用はご遠慮下さい。また内容は表記日時に作成された当面の分析・見通しで一つの見方を示したものであり、売買を推奨するものではありません。最終的な判断は、御自身で下されますようお願い申し上げます》